

奨励賞 ももさん（岡山県 高校1年）

木々が伐採され、辺り一面茶色くなった森林。排気ガスで黒ずんだ街や、天候不良による食糧難に苦しむ人々など。SDGsについて考える時、私の頭の中に思い浮かぶ光景だ。カラフルなロゴの裏には、これまでの地球の変化やそこに関わる人々の生活、そしてより良い未来を創造するための設計図が隠れている。

学校でSDGsについて学ぶ機会は多い。地理や英語など、SDGsについての内容を扱う教科も多岐にわたる。教科書をめくると、いくつかの写真が目に入る。学習するうちに世界の今の状況も少しずつわかってきた。様々な企業や大学、地域の人々がSDGs目標達成のために行動しているのを見て、自分も何か地球の未来のためにできることをしてみたいと思った。しかし規模が大きくて何をしたら良いのか明確にすることができなかった。そんな漠然とした私の考えを覆した光景がある。

緑一面の美しい田んぼの上をドローンが飛んでいた。のどかな街に響くブーンというその羽音はとても新鮮で、遠い未来を見ているみたいだった。見ていてとてもワクワクした。私の住む岡山県は「晴れの国」と呼ばれるほど天気の良い日が多く、川の水が豊富で自然豊かな場所だ。瀬戸内の気候に恵まれ、昔から稲作などの農業が盛んに行われてきた。そんな岡山は近年、農家の高齢化という大きな問題を抱えている。問題の解決のため、現在様々な取り組みが行われている。ドローンの活用もその一つで、植物の生育状況をチェックしたり、種をまいたりする実験が行われている。私も以前田植え体験をしたことがあるが、その時農家さんから「農業は大変。機械化が進むと速く作業ができるし若い方々と協力できるきっかけになるので嬉しい。」と伺ったことがある。ドローンも農業を次世代につなぐ架け橋になるかもしれない。進歩した技術をうまく活用できれば、人と自然の共存を続ける大きな一歩を踏み出せると思う。

お米の他にも、岡山には美味しい特産物がたくさんある。葡萄や白桃、ママカリという魚など。昔から人々が親しみ、大切に守ってきたものだ。大地の豊かさは海にもつながってい

る。豊かな自然環境が守られれば、そこに住む動物や街も守ることができる。伝統を受け継ぐのが難しくなったらそこで終わりとするのではなく、新たな技術を活用し、解決策を導いていくことが大切になると思う。

SDGs の目標達成は自然のサイクルを保つことに役立つ。さらに達成後も先を見据えた行動を続ければ、人や地球を思いやる行動が当たり前になるはずだ。

未来を考えることは、次の世代に送るプレゼントを考えているみたいだと思った。今私達は 2030 年の世界をより良くするために SDGs の目標を定め、多くの人や国と協力している段階だ。箱の中身は、開けてみないとわからない。開けたら素敵なものが入っているかもしれないし、中が汚れた空っぽの箱かもしれない。同様に地球の未来も、次の世代の人々が実際に世界を見るまではどうなっているのか確認できない。しかし現在の利便性だけを考えていけば、暗い未来とそこで苦しむ人々が見えてくることは確かである。箱を開ければ、中身を変えることができる。未来を創造するうえで大切なのは、過去や目の前の現実に向き合い、そこから改善策を導けるよう努力することだと私は考える。

2050 年、世界はどうなっているだろう。理想の世界を次世代に届けるため、まずは身近な努力から始めて行きたい。節水、山や海の清掃、勉強など。できることが多くある。そして将来、人や街を守りだれかの笑顔を支え、持続可能な社会を創造する力になりたい。

青々とした森林。空気の澄んだ街。美味しいご飯を食べて笑う人々。そんな次世代が楽しみになる光景が世界中で見られる未来であってほしい。その実現のために贈り物の準備を今から始めよう。箱を開けた人々が、次の世代にも素敵な贈り物を届けられるように。